

奈良県フォレスターアカデミージャーナル

Nara Forester Academy JOURNAL

2

Die Interessen des Waldes und des Menschen verbinden. Concilier les intérêts de la forêt et ceux de la société



先人からの想を引き継いでいくために

Aut inveniam viam aut faciam

Förster sind gut ausgebildete und vielseitige Führungskräfte, die sich als Praktiker im Wald sehr gut auskennen.

Les gardes forestiers sont des gestionnaires bénéficiant d'une excellente formation. Praticiens multifonctionnels, ils connaissent très bien la forêt et agissent dans son intérêt et dans celui de l'homme.



吉野材の 特性及び用途

I 授業報告

2022年1/24~26

吉野林業と吉野材の過去、

今回の授業では、吉野材(吉野林業)の歴史や特性をはじめ、伝統的な樽丸や製材品、割り箸の製造技術・流通の過程を学びました。またかつての吉野材の伝統的な流通や用途から変化してきた部分を、その変化を生み出している方々を先生にお迎えし取り組みをお伝えいただきました。その中から、2つの授業をピックアップレポートしました。学生たちは先生方の技術や熱い想いを興味深く聞き入り、たくさんの質問が飛び交っていました。

1
25

平井健太さん 木工作家 studio Jig

アイルランドの作家ジョセフ・ウォルシュ氏のもとで修行した平井さんは、曲げ木の技術「Free form Laminationフリーフォームラミネーション」を日本でどう活かすか考え、川上村にたどり着きました。そんな平井さんの取り組みや考え方を学びました。

- 【プロフィール】 1984年 静岡県出身
2007年 京造造形芸術大学 環境デザイン学科卒業
2007年 清水建設株式会社 関西事業部設計部勤務
2010年 飛騨高山「森林たくみ塾」にて木工技術習得
2012年 アイルランド「Joseph Walsh Studio」勤務
2016年 地域おこし協力隊の制度を活用し奈良県川上村に移住
2017年 「studio Jig」開業
- 【受賞歴】 国際家具デザインフェア旭川2017 ブロンズリーフ賞受賞
ウッドデザイン賞2017 優秀賞(林野庁長官賞)受賞



平井さんの作品

やわらかい針葉樹での家具づくりに挑戦! 既成概念を変え、未だ無き道を切り開いていく。

三次元に木を曲げる技術と 吉野杉のコラボで、既成概念を変える!

大学を出たあと建築会社で設計をしていたのですが、「自分でものづくりをしたい」との想いから木工の技術を取得後、アイルランドで曲げ木の技術を学びました。2016年に帰国してから、「日本では活かせる素材がないだろう」と思っていたのですが、吉野に既製品の突板(ツキイタ:木材を薄くスライスしたもの)があると知りました。驚いたことに吉野材は節が少ないため4メートルの無節の突板を製造しており、それが「フリーフォームラミネーション」に最適でした。また、年輪幅が緻密であるといった、吉野杉のクオリティの高さと歴史に感銘を受け、地域おこし協力隊として川上村に移住を決めました。

針葉樹を使って家具をつくりたい

木製家具は広葉樹で作ることが多いのですが、奈良県では利用可能な広葉樹が少なく針葉樹が多いということなのでなんとかそれを使いたいと考えていました。柔らかいので仕口を極力減らす工夫をしています。この座椅子では負荷がかかるRの部分に仕

口を使っていません。通常の針葉樹の曲げ木ではこれはできないのですが「フリーフォームラミネーション」ならこの箇所はジョイントなしでできます。圧密加工の機械を買うよりずっと安価にできるし、柔らかさなどの杉の良さを残せます。

スギの優等生、吉野杉。 その良さを活かし、 自由な発想でアート作品をつくる

吉野杉のクオリティは常軌を逸していて、杉自体が人間が作り出したひとつの作品だと感じます。わたしはそれを利用させてもらっているんです。アート作品も数多く作成しています。奈良県コンベンションセンターにある大きなベンチは、天然に育った木そのままの良さと、スラリとした吉野杉を合わせました。他にはレクサスCPO権原店のオブジェ。浜松にある某カフェではサスティナブルの象徴として店舗を作るために伐採した木を使ってオブジェを作りました。そして世界的建築家の隈研吾さんともコラボさせていただきました。これからも吉野杉で表現の可能性を広げたいです。



Q.平井さんの作品の中で、「吉野杉である意味」をどうお考えですか?

A.材料として適していることはもちろん、日本最古の歴史ある林地のスギを使うことでストーリーもありますし、自分のブランドを育てていくことにおいても、吉野ブランドを使うことを大切に考えています。

Q.フリーフォームラミネーションは安価にできるのですか?

A.大掛かりな設備を用意せずとも、曲げることができます。圧密加工の機械は何億ものので個人では難しいし、固くなるので杉の良さもなくなってしまうんですね。



今を知り、未来を考える！

学びのポイント

- 吉野材の利用や流通がどのように変わってきたかを理解すること
- 吉野材の歴史や伝統、特性・用途を知り、業界の将来の展望についてポジティブな考えを持つこと
- 学んだ知識を連結させて将来展望へのストーリーを作るための土台をつくること

1
26

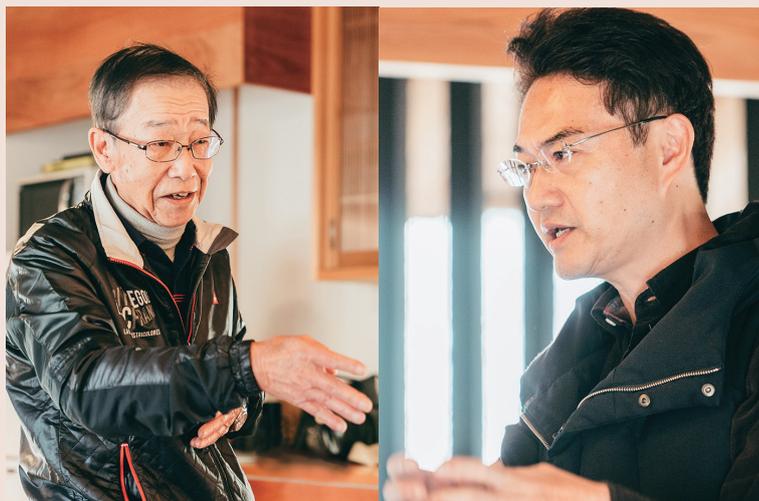
阪口浩司さん・勝行さん

阪口製材所

吉野の山で生育した木をふんだんに使った「吉野サロン」に伺い、阪口浩司さんの想いや考え方、工法などのお話を伺いました。また隣の「吉野MIX」はご子息の勝行さんが案内してくださり、どちらも学生からは「すごく居心地がいい〜!」という声が上がっていました。

1946年
奈良県吉野町丹治にて製材所を創業。一本の木材を完全製品化し、資源を無駄にしないようその全てを利用するために、天然乾燥を中心に一貫した事業展開を行っています。

2010年
木の展示館「吉野サロン」を建築し、情報発信基地として活用をはじめ。



一本の木を丸ごと使う。先人の残してくださった想いを未来につなぐ!

吉野の木を余すことなく使い切る。 時代に合わせたモデルハウス

2010年に吉野材をふんだんに使ったモデルハウス「吉野サロン」を建てました。売る方の都合で杉を提供するのではなく、タモ・ヒノキ・ケヤキやクリなども使い、木のぬくもりや香り・空間を体感していただけます。その後、若い家族のニーズに合わせてモダンなデザインの2件目「吉野MIX」に挑戦。とにかくオシャレなデザインや家具にこだわり、建築も勉強しました。どちらも1本の木を余すことなく適材適所に使っています。

500年の歴史を持つ吉野林業。 今度は私達が 100年後に望まれる木を育てる!

吉野材のブランドは大変な労力と時間をかけて作られてきた大きな財産です。しかし戦後から50年間はとにかく木が売れる時代で、木そのものに感謝もせず、使ってくれる現場や施主のことを知ろうともしてこなかった。しかし吉野杉

の価値がだんだんと下がってきたときに、「こんなことになったのは大変な思い違いをしてきたからだ」と痛感しました。だからこれからは、先人の繋いできてくれた恩に報いる想いで、この技術と山の資産を将来へ繋いでいかなければいけません。杉は神の木。これを忘れないでいきたいですね。

現代のニーズや価値観の変化に合わせて 私達も変わってきた

昔と今では「良い木」という概念が変わってきました。昔は希少価値がありフシがないのが良い木とされていましたが、今は多少フシや割れがあっても気にせず、良い木の条件は人それぞれ。家を建てるときも自分の思い通りの自由なインテリアやデザインを重視した家造りをしたい、という価値観へ変化してきました。なのでそのニーズに合わせて私達の考え方や提供できるものも変えてきたのです。自分の都合ではなく住む人の望むものを提供する。それを徹底してきて今日があります。



今回の授業で、学生は吉野材の特性について考える良い機会になったようでした。3日間講師をしてくださった皆様、ありがとうございました!

宇陀市森林組合で 間伐業務を体験

今回は宇陀市森林組合にお邪魔し、インターンシップを体験させていただきました!宇陀市森林組合へは2名の学生が参加し、間伐をするための選木・伐採作業などを体験しました。当日は寒波で雪が降りとても寒かったのですが、優しく温かく指導していただきました。



組合長にお聞きしました。

間伐の授業、 具体的にどんなことをしましたか?

伐る予定の木に印がついているでしょう。昨日はみんなでどの木を伐るかを選木しました。この森の木は樹齢約45年生です。密植させておいて過密になる前に良い木を残すために、間伐を何度も繰り返します。間伐した木を後日市場で売る場合もあるので、搬出すること、また木を倒す方向をどう定め

るかなども学んでもらいました。伐採の際には、木の重心を見ながら木の間を狙って他の木を傷つけないよう真っ直ぐ倒すということもしてもらいました。

今回、奈良県フォレスターアカデミー(NFA)の生徒にどんなことを学んでもらいたいですか?

宇陀の山もそうですが、いま奈良県の山は木が過密になっている所が多くあります。何故かというところ、ここ30年近く木材の値打ちが下がってしまい、採算が合わないため手入れが行き届かなくなっているからです。間伐はもっと早くからしていかなければならなかったのですが、経費がかかるため山主も十分な手入れができなくなっています。この過密になった奈良県の山の間伐作業をすすめてもらうことが非常に大切なことなんです。なのでNFAのみなさんにはしっかりと山のことを学んで活躍して欲しいと思っています。また、何よりも大切なことは「安全」に目的

を達成することなので、そこを実感してもらいたいです。1に安全、2にも3にも安全ということです(笑)。

どんな人に来てもらいたいと思っておられますか?

真面目なことはもちろんですが、共同作業も多いので協調できる人に来てもらいたいですね。前向きに物事を考え臨機応変に動けることも現場では大事です。なぜなら、同じ現場は2つとなく、かつ危険な作業が多いので、なにか起こる前に予測・察知できることが重要だからです。また野山での動きは平地とは違い、滑ったり色々あるのでとにかく山に慣れて、イレギュラーなことにも対応できるような人が欲しいですね。

組合長 三本木 康祐さん



中森 政由貴さん



森本 祐太郎さん
フォレスター学科



樋口 峻作さん
フォレスター学科

宇陀市森林組合へのインターンシップを希望された理由は?

森林管理職^(※)として林務行政に携わっていくために、各地域の森林を協同で管理している森林組合が実際にどのような仕事をされているか知りたくて希望しました。NFAでは吉野、北山・十津川森林計画区内での実習や講義が多いので、大和・木津川森林計画区内でかつ農家林業的な性質を持つ宇陀市森林組合管区の森林について知識を深めたいと思いました。

指導担当の方々からはどのような指導を受けましたか?

安全に配慮した作業工程を正しく組み立てることの重要性について教えてくださいました。理論上の基礎を踏まえながら、どのような状態でも一定の技能が発揮できるように自分なりの型を作っていくことが大事であること、特に、伐倒作業の際の受け口作りについて、どのような体勢・場所であっても正しい方向に作る重要性について身をもって学びました。

インターンシップでどのような業務を経験されましたか?

選木、間伐、玉切り及び枝払いを行いました。選木では将来売れない木や、風や雪で危ない木を取り除くために木を選びます。選んだ木を伐採する間伐を行い、また、伐採した木に付いている枝を切り落とす枝払いを行いました。奈良県は密植型で過密な状態で苗を植えるため、間伐をしないと風や雪で倒れてしまう細い木になってしまう。逆に適切な間伐を行うと丈夫で太い木ができると教えて頂きました。

今回の経験を今後どのように生かしていきたいですか?

今回で選木、間伐、玉切り及び枝払いなど様々なことを学びました。それから、林業においていかに間伐が大切であるか教えて頂きました。この経験を生かして最初はその技術を自分のものにし、完全にものにしたら、間伐の重要性を伝えていきたいです。

(※)NFAでの研修を経て、県内の市町村役場などで森林管理業務に従事する奈良県職員。

学生インタビュー

学 生 VOICE

ボイス

森林作業員学科は、森林作業に必要な高度な技術や技能を実践的に学ぶとともに、労働安全衛生や森林に関する基本的な専門知識の習得を目指す、修業期間が1年の学科です。今回は森林作業員学科の3名に、1年間の学びについてお話を伺いました。

テーマ 森林作業員学科の第一期生として体験したこと



松谷 真輔さん



芳谷 幸司さん



嶋崎 勝文さん

奈良県フォレスタア카데미 (NFA) に入学され、楽しかったことはなんですか？

松谷 川上村や黒滝村などの施業地や十津川村の空中の村、また集成材工場など林業に関係する色々な場所への視察が楽しく勉強になりました。

芳谷 オープンキャンパスの企画・運営を「森林を対象としたイベント企画と実践Ⅰ」という授業のなかでやったことです。新型コロナウイルス感染症対策のために急遽ネット配信での開催となって準備にバタバタしましたが、それも含めて楽しかったです。

嶋崎 僕は、いろんな年齢や職種を経験した同級生と協力しながら1年を過ごせたことが一番楽しかったです。

特に好きな授業はなんですか？ また、先生はどのような方ですか？

松谷 「林地の災害リスクⅠ」の授業では山の見方、地形の見方が変わりました。宿題のレポートは大変でしたが、とても興味深い内容でした。担当の先生は熱い方です！

芳谷 「機械操作の課題克服Ⅰ (チェーンソー)」の授業ですかね。実際に山に入ってセミの鳴き声を聞きながら班に別れて伐木作業をしました。先生は、内部講師、外部講師共に

個性的な人が多いです。

嶋崎 屋外での実習や資格取得の授業です。講師の先生方なども、親切・丁寧そして生徒の安全を一番に考えて熱心に指導していただきました。

大変なときはありましたか？ そのときはどのように乗り越えられましたか？

松谷 7月下旬の実習林での伐木練習は結構大変でした。ヒノキの間伐をしましたが、伐る木ほとんどがかり木になり、かり木処理の大変さを味わいました。しかもとても暑かった。でも同じ班になった人達と協力して頑張れました。夏の作業は熱さ対策も必須です。

芳谷 机に向かって勉強するのが20年ぶりだったために、最初は慣れるのに大変でしたが、時の流れに身を任せ(笑)、やり続けることができました。

嶋崎 座学です。植物同等がなかなか頭に入っていかなかったんですが、同級生に教えてもらいながらなんとか学ぶことができました。

同級生とはどんな関係ですか？

松谷 みんな仲が良く、助け合ってます。向上心を持って、課題に取り組めるクラスメートです。

芳谷 実習で作業をする時に、上手くいった時は褒め、失敗した時は注意したり励ましたり、言いたいことを言える関係です。

嶋崎 友人であり兄弟のような感覚ですかね。めっちゃ仲が良いです。

同級生に助けられた、同級生とこんなことを頑張ったといったエピソードはありますか？

松谷 広葉樹の苗作りをしたいと思い、一緒にしてくれる人を呼びかけたら、同じ興味を持っている人が沢山いて、「奈良県フォレスタア카데미種苗研究会」通称「苗研」を立ち上げることができました。今、苗畑作りを進行中です。NFA 公認の課外活動として頑張っています。

芳谷 レポートの課題がありますが、ノートのコピーをもらったり、休日に集まったりして考えを共有して乗り切りました。

嶋崎 チェーンソー実習や路網整備・林業機械実習・グループワークでの発表で協力しながらやり遂げることができました。

卒業後の進路はどうされる予定ですか？

松谷 まだ決まっていませんが、NFAで得た知識や技術を地域のために役立てていきたいと思っています。

芳谷 現場作業のある事業体に就職がしたいです。

嶋崎 現場作業員になりたいですが、現在まだ考え中です。



突撃★ 職員室

Vol.02

しみず やすひさ
清水 寧久さん(32歳)

出身地:群馬県 担当:路網、測量、集約化・施業提案

もともとは、どんな経歴なんですか？

林業の現場作業に自ら取り組み、現場を理解した上で、林業関係者と仕事を進めたいという想いがあり、これまで現場技能に関する研修に参加してきました。経験を積む中で、労働安全や作業道作設に関する指導ができればと思っていたところ、NFAに配属されました。入庁8年目とまだ未熟ですが、これまでの経験を活かしつつ頑張っています。

清水さんは、奈良県フォレスターアカデミー(NFA)でどんなことを担当されているのですか？

内部講師として、NFAの授業運営に携わっています。担当する授業としては、路網、測量、集約化・施業提案などです。林業の現場で必要となってくる知識や技能の習得を目標とした授業になります。その他にも広報関係、学校概要・HP作成、大型機械関係の業務等たくさん抱えています(笑)

チェーンソーの受賞をされていると聞いたのですが。

伐木チャンピオンシップという林業技術及び安全な作業意識の向上を目的として開催されているチェーンソーの競技大会があるのですが、2021年11月に開催された第2回日本伐木チャンピオンシップin鳥取のビギナークラスで2位の成績を収めることができました。講師として授業を安全に進めるために、日ごろから技術を磨く必要があり、競技をとおしたスキルアップに励んでいます。

これまでで一番たいへんだったことはなんですか？

学生の多くが林業未経験者且つ年齢や経歴が多様であった

ことから、どのように授業を組み立てていったらより理解が深まるか、頭をひねりました。現場での実習は、準備から片付けが終わるまで手を離せないのも、とにかく大変でした。

では、楽しかったことや嬉しかったことは？

頭をひねって考えた授業をやり遂げた時とその時の学生の表情に不満が表れていなかったときでしょうか。たまたまそういう表情に見えただけかもしれませんが(笑)。自分でもこういう流れで授業を進めればとか、こういう説明をすればとか改善すべき点はあるので、来年度に向けよりよい授業をできるよう頑張っていきたいです。

これから先どんなふうにしていきたい、など展望はありますか？

学生が卒業してすぐに大活躍というわけにはいかないと思います。卒業して数年後、地域に馴染み、実務経験を積んだ時には、この人がいなければと言われるような地域のキーマンになってくれると嬉しいですね。いつか地域の課題解決に向けて一緒に仕事できる日を楽しみにしています。そのためにも他の林業大学校からも一目置かれるような又事業体の方から欲しいと言われるような人材の育成ができるよう頑張らないといけませんね。

最後に、読者の方にお伝えしたいことはありますか？

奈良県の林業が良い方向へ進んでいけるように、NFA講師という立場で全うすべき人材育成に向けて鋭意努力していきますので、今後ともよろしくお願いいたします！

●本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転写、複製、転載を禁じます。

